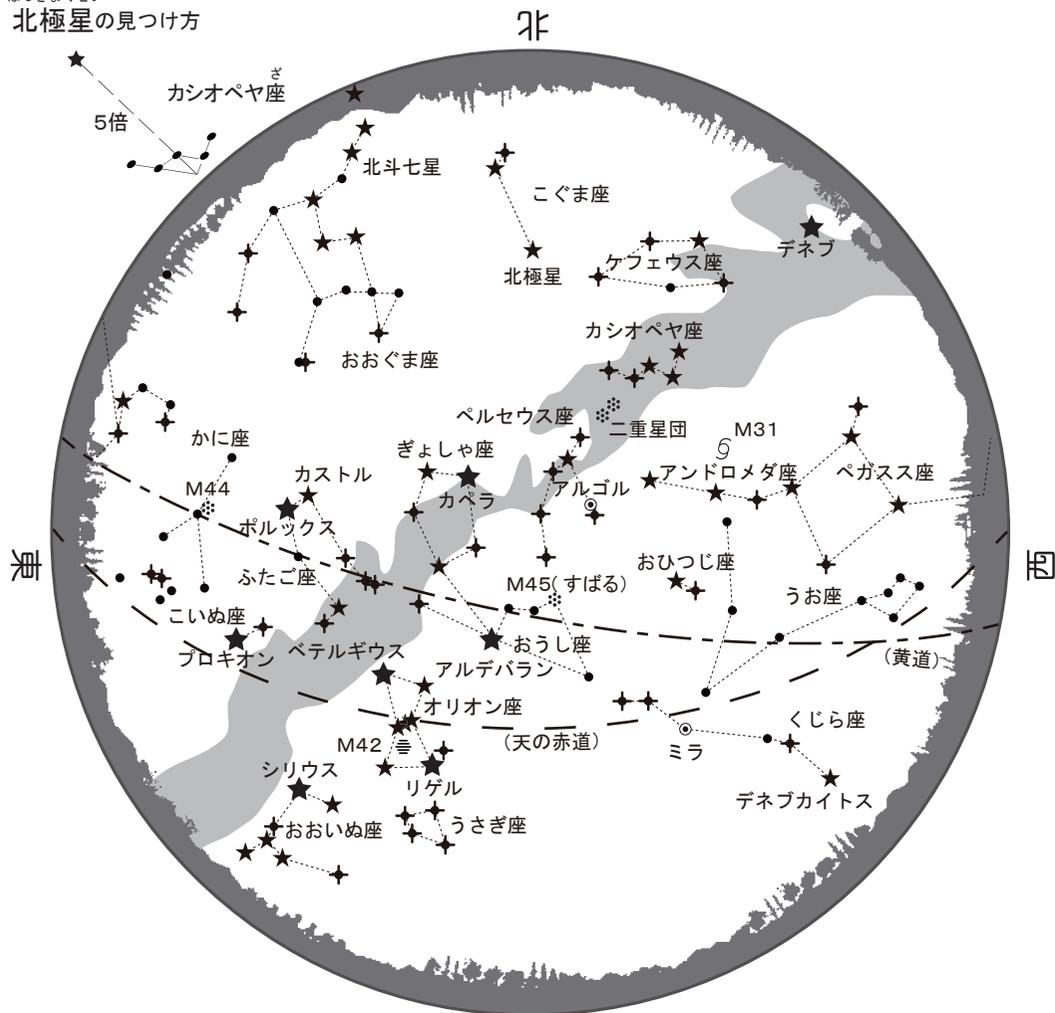


富山で見える 2022年1月の星空

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見よう。

ほっきょくせい
北極星の見つけ方



- ★ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ★ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ☁ 星雲
- ☾ 銀河

この星空が見えるのは

- 1月 5日 21時ころ
- 1月 20日 20時ころ
- 2月 5日 19時ころ

～月のようす～

- 1月 3日新月 ●
- 1月 10日上弦 ◐
- 1月 18日満月 ○
- 1月 25日下弦 ◑



カシオペヤ座

古代エチオピア王の妃・カシオペヤがモデルになっています。北極星を見つけるための星座としてよく知られており、Wの形と見えていますが、秋から冬の時期はひっくり返ってMの形に見えます。日本では、山の形に似ているので「山がた星」と呼ばれました。



ぎょしゃ座

ぎょしゃとは馬車の運転手のことです。黄色の0等星カペラが目印で、このカペラをふくむ、少しつぶれた五角形の形に星をつなぎます。カペラには「小さなメス山羊」という意味があり、星座絵でも山羊をかかえた男の人が描かれています。



おうし座

赤い1等星アルデバランが目印です。星座絵では、おうしの目にあたります。またこの星座には、有名な「すばる」があります。平安時代に清少納言が『枕草子』の中で「星はすばる…」と、その美しさをたたえています。

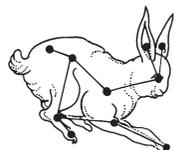


オリオン座

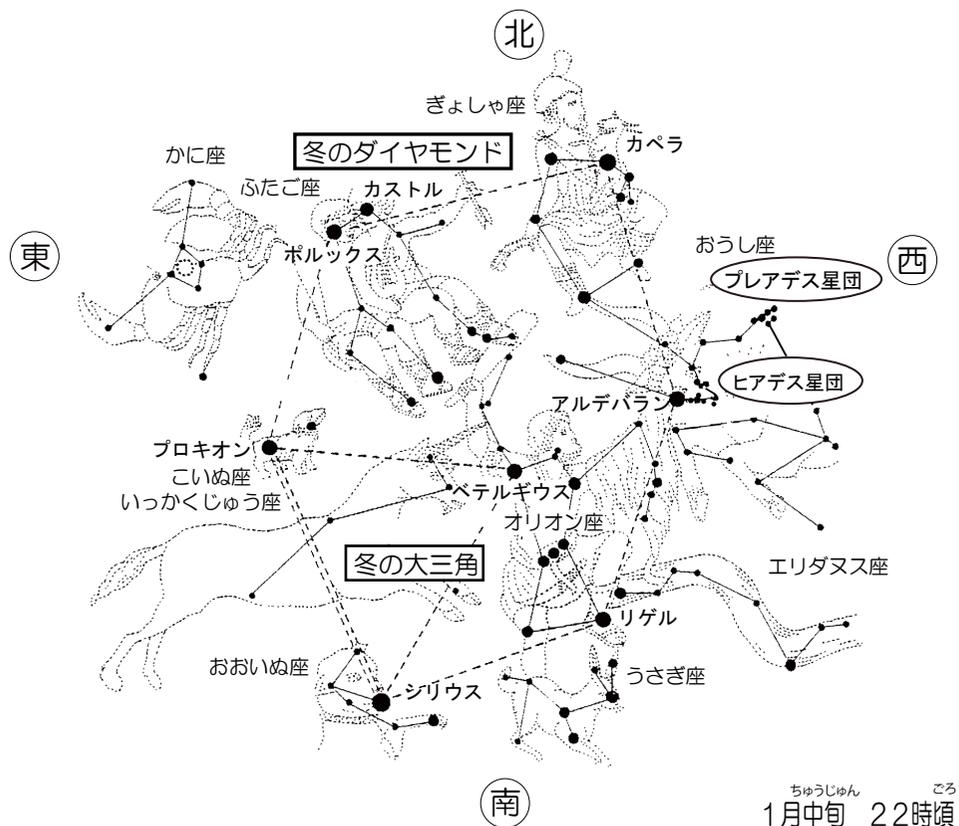
砂時計のような形をした星の並びがオリオン座です。左上の赤くて明るい星はベテルギウス、右下のやや青みがかった明るい星はリゲルで、ともに1等星よりも明るい星です。またこの星座には、オリオン大星雲 (M42) と呼ばれる星雲があります。

うさぎ座

オリオンの足元にある星座です。うまく星をつなぐと、長い耳やしっぽ、前足などをたどることができます。顔のあたりには、暗いですが赤い色をした「クリムゾン・スター」と呼ばれる星があります。



冬の星座の見つけかた



1月中旬 22時頃

- 1 砂時計のような形のオリオン座を見つめます。
- 2 オリオン座の真ん中の3つ並んだ星（三つ星）を上へのばして、おうし座のアルデbaranを見つめます。
- 3 アルデbaranの左上に、カペラを含み五角形をしているぎょしゃ座を見つめます。
- 4 オリオン座の三つ星を左下へのばして、冬の星座で一番明るくかがやくシリウスを見つめます。
- 5 オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンで作る「冬の大きな三角」を見つめます。
- 6 ぎょしゃ座の左下に、2つ並んだ明るい星のあるふたご座を見つめます。
- 7 1等星以上の明るさのシリウス、プロキオン、ポルックス、カペラ、アルデbaran、リゲルをつなぐ大きな六角形が「冬のダイヤモンド」です。

2022年注目の天文現象

- 1月4日午前0時～：しぶんぎ座流星群が月明かりなく観測のチャンス
- 4月上旬夜明け前：火星と土星が並んで見える
- 5月上旬夜明け前：金星と木星が並んで見える
- 11月8日：皆既月食（同時に月が天王星を隠す天王星食）

部分月食の開始 18時09分

皆既月食の開始 19時16分

19時59分に最も影の中心に近づく

皆既月食終了 20時42分

部分月食終了 21時49分

※この他にも注目の天文現象がたくさんあります。毎月の本紙で紹介いたしますので、ご覧ください。

〇細い月と惑星たちの接近に注目！

1月4日から6日にかけて、水星、土星、木星の近くを細い月が通り過ぎていきます。4日には前日に新月を迎えたばかりの細い月が水星の左横に見えます。日の入り30分後の高度が10度ほどなので、南西から西の方角の開けている場所で観察しましょう。双眼鏡があるとさらに見つけやすくなります。

さらに月は移動し、5日は土星と木星の間に、6日は木星の左横に見えます。

木星のように明るい惑星の近くに月があるときは、夜空の中でひととき目立っていることでしょう。

